

Principal Correspondence

「アート」の重要性をご存じですか？

21世紀を生きるスキルのひとつに

「アート」の必要性があげられています

リーダーを育てる学校を米国などではボーディングスクールと言い、英国では、パブリックスクールと言います（といっても公立ではなく私立で、王侯貴族の子ばかりでなく一般の人にも開かれた学校と言う意味です。英国では公立学校はステイツスクールと言います）。そこで学生は必ずアートの科目「絵画・彫塑・写真や映画」などの中からひとつ選ぶ事になっています。

経験的に教育界では、アートを学ぶとリーダーになったときに 様々な認識能力が高まると言われてきました

データとしても例えばノーベル賞受賞者の大半が芸術の趣味を持っていると結果に出ています。「アート」は人間に美意識や美学を育み、視覚的に（=Visually）これから向かう場所（つまりヴィジョン=VISION）をイメージさせてくれるというのです。

20世紀を代表するリーダーのチャーチルや（例は悪いのですが）ヒトラーも本格的な絵描きでした。チャーチルは文学も得意でしたし、ヒトラーは美術学校の試験に落ちましたがどちらも（正しいかどうかは別として）ヴィジョンを解りやすく描き、それを耳にした人を熱狂させました。



ヒトは絵が描けるためにこれまで生き残れたとも言われます。現在残っている人類最古の絵は、フランスのラスコーの洞窟の絵画ですが、ヒトが鋭い牙や爪も持たないのに、今日まで生きてこられたのは言葉とともに、絵を描き視覚的に狩りのイメージを共有し、コミュニケーションの力で役割分担して獲物を捕獲したからだと言われています。つまりヴィジョンをもって、あるいは共有して狩りに臨んだのです。

リリーベール小学校では「アート」は大事な科目と認識して力を入れてきました。それをさらに強化すべく体系的なプログラムを創って参ります。



Principal Correspondence

天才と秀才の違いとは？

野球のイチロー選手は「僕は天才ではありません」と言っています



「僕は天才ではありません。なぜかという、自分がどうしてヒットを打てるのかを説明できるからです」と言っています。つまり論理的に何故打てるのか、打てなかったのかを説明できるわけです。これをアカウンタビリティと言い、同じフィジカルの人が同じフォームでやれば再現できるというものです。彼は「あとから説明できるというのは天才ではない証拠」だと言っています（でもその努力は天才だと思いますが！）。

《世界のエリートはなぜ美意識を鍛えるのか 山口周 光文社新書》

一方いわゆる天才は

「言語化」できず「再現性」が無い人を言い、長島選手のように「ぎゅっと腰を入れてピュッと打つ」と言うような再現不可能な、説明できない人を言います（別にネガティブに言っているわけではありません）。

教育とは決して一足飛びに天才を作ることを目指すことではありません

未来で、それぞれがいろいろな分野で活躍し成果を出せる人を作る営みです。しっかりとした裏づけとサイエンスの下にアカウンタビリティを果たすため、勉強、トレーニング、レッスンをこつこつ積み重ねていく。ただし、そこには「憧れ」とか「夢」とか「目標」とか科学的に説明できない「情熱」や「モチベーション」が無ければ続きません。

そのためには幼児期から少年少女期に多くの「夢」が持てるような実体験や感動が必要です

それも多くの仲間や友達の中で（イチロー選手もそうでしたが）競い合い、励ましあい、刺激を受け、時には悔しい思いをしながら育てていくことが大事です。

決して一人だけでは「夢」や「情熱」も続きません
学年を超えてそういう場を提供したいと思います

